

知財リスク対応の基礎知識並びに知財人材育成の授業デザイン

■講師



木村 友久(山口大学 国際総合科学部 教授 (併任)知的財産センター 副センター長)

宮崎相互銀行職員、宮崎県職員、宮崎県立高校、都城工業高等専門学校を経て、2002年から山口大学。山口大学では、メディア基盤センター、技術経営研究科を経て2015年度から国際総合科学部の知財科目を担当。日本工学教育協会工学教育賞、産業財産権制度関係功労者表彰(知財教育で特許庁長官賞)を受賞。基本の研究領域は知的財産法務であるが、知財教材開発や特許検索システム開発も担当している。

<http://www.kim-lab.info/essay.html>

■プログラム概要

知的財産の重要性認識の高まりに比例して、日常的に知財紛争が起きる状況が生まれています。これは、受講者の所属組織で紛争に巻き込まれる可能性を示唆するとともに、大学等が学生の「生きる力」として知財に対する感性を育む何らかの対応をする必要性を指し示しています。後者の知財人材育成については、知的財産推進計画2016等でも各組織が知財人材育成に取り組むことを誘導する施策が記述されています。一方で、知財人材育成を実現する場合に、必ずしも知財教育の定義が定まっておらず、目的、学習対象者の設定、発達段階ごとの到達度、教材の選択ないしは作成、教育方法、評価等々、において担当者の個人的なレベルで対応するケースが多いです。今回は、①知財紛争の現状と組織対応の基本を確認する、②組織あるいは学生が知財に対する感性を獲得する知財教育のありかた、③具体的な教育方法の紹介、④組織内で知財人材育成を定常化する方法等を扱います。

■主な受講対象

- ・学習者の創造性涵養あるいは深い思考を促す教育を、知的財産を軸に実施することを考えている教職員。
- ・知財教育の進め方および知財教育の意義に関心のある教職員。
- ・組織の知財リスク対応に関心のある教職員。
- ・組織の知財に対する感性向上を目的とした研修に関心のある教職員。

■本プログラムの到達目標

1. 社会における知財リスク対応力形成の必要性を認識する。
2. 学習対象者別に知財人材育成・教育の目的を設定し、それに対応する知財教育の定義を理解することができる。
3. 2で設定した学習対象者に合わせた授業デザインを設計し教材を作り込む基礎的能力を形成する。
4. アクティブラーニングやジグソー法を組み込んだ授業ができるようになる。

■日時・会場

日時:平成28年8月24日(水)15:30~17:30

会場:愛媛大学城北キャンパス